

平成27年度 県立大学地域貢献研究推進事業 交付対象研究一覧

	研究課題	主たる研究者(発表者)			研究終了年度	研究概要
		所属	職	氏名		
平成27年度新規研究(今回採択)	福井県企業のアジア事業展開支援に資する政策課題の抽出と情報提供 -地域経済分析システム(ビッグデータ)等を活用した分析-	地域経済研究所	教授	丸屋 豊二郎	28	ビッグデータを活用し、福井県企業・産業の国際化の現状について分析し、産業空洞化の問題を検証するとともに、福井県の産業集積の発展や個別企業の国際化・活性化支援に資する研究を実施し、データベース化等により県内企業に情報提供する。
	福井県における人口減少への政策対応のあり方に関する研究	地域経済研究所	教授	佐々井 司	27	人口減少の人口学的メカニズムの解明、人口減少の社会経済要因に関する調査・分析、人口減少への政策対応のあり方に関する考察を行う。
	農水産資源を利用する発酵製品の開発研究	生物資源学部	特任教授	宇多川 隆	27	桜酵母を使用した清酒醸造、間山町産ブルーベリーを使用したワイン醸造、メグスイしりを開発する。
	地域連携による新たな酒造好適米の開発と有機栽培技術の確立	生物資源学部	教授	木元 久	28	付加価値の高い酒造好適米の新品種開発を行うとともに、有機栽培技術を確立し安全・安心の日本酒を完成させる。
	ソバ・園芸作物・伝統野菜など福井県特産農作物に含まれる健康機能成分の定量・機能性評価	生物資源学部	准教授	高橋 正和	28	伝統野菜やソバなどの県産農作物について、主要機能成分の定量分析、有効成分の機能性検証・新たな機能成分の単離同定などを通じて付加価値やブランド力を増強し、農業の収益性向上や六次産業化に貢献することを狙う。
	海底堆積物コアから診る小浜湾の環境変遷と人間活動の関係	海洋生物資源学部	講師	杉本 亮	27	小浜湾から柱状堆積物試料を採取し、含泥率の変化、湾内の生物生産環境の変化、人為起源物質の混入割合の変化を明らかにし、持続可能なまちづくりを目指す小浜市に提言を行う。
	新規学卒Uターン就職者の就職先探索行動に関する研究 -Uターン就職希望者の環境探索・自己探索の多寡と早期離職の関連性からの分析により若者定着を促進する就職支援策の有効性を検証する-	キャリアセンター	教授	中里 弘穂	28	Uターン就職を希望している県外進学大学生等への調査、Uターン就職で県内企業に入社した若手社員への調査・分析、Uターン就職希望者の採用に積極的な企業の採用方法や入社後の定着支援体制に対する調査・分析、Uターン就職希望者に対する就職支援、情報提供の有効性分析を行う。
アジアのイグアノドン類の分類学的・古生物地理学的研究 -福井県のイグアノドン類はどこから来たのか-	恐竜学研究所	講師	柴田 正輝	28	アジアのイグアノドン類の再検討および本県で多く発掘されているイグアノドン類の分類学的研究を行い、分類学的、系統学的関係を明らかにする。	
平成26年度からの継続研究 計8件	カニ殻農法による県内農作物の地域ブランド化とトマト新品種への育種	生物資源学部	教授	木元 久	27	平成24～25年度の地域貢献研究において検証したカニ殻由来キトオリゴ糖の植物に対する有効性および収穫量向上ならびに病害抵抗性の誘導の成果を生かし、実際にキトオリゴ糖を使用して栽培したトマトを県内各種イベントに出品し、「福井発次世代農業資材キトオリゴ糖の宣伝」、「カニ殻トマトの地域ブランド化」を目的とするとともに、カニ殻トマトに適した新品種への育種にも挑戦
	福井県での栽培に適したパスタ用デュラム小麦品種の開発	生物資源学部	教授	村井 耕二	27	収穫時期が遅く、草丈が高いことなどから国内で生産されていないデュラム小麦を、国内向けのデュラム小麦品種として福井県での栽培に適した早生で短稈の新品種を、研究者が開発した早生短稈優良小麦品種「福井県大3号」との比較・交雑等により育成し、全国初となる国産デュラム小麦を開発
	ふくい和食食材の商品開発および販路開拓に関する研究 -福井市越廼の水産加工品開発と小浜の和食食育を結ぶ-	海洋生物資源学部	教授	加藤 辰夫	27	和食の食材を供給する一次産業が六次産業化するにあたって重要な課題である販路開拓と生産加工、販売促進のあり方について、実践活動を行っている主体に対して事例調査を実施し分析するとともに、福井市の水産加工品販売の試みと小浜市の食育活動を結ぶ活動を推進する。
	三方湖におけるブルーギルの資源変動予測と変動要因の解明 ブルーギル増大問題を抱える北潟湖での応用をめざして	海洋生物資源学部	教授	富永 修	27	平成24～25年度の地域貢献研究で提案したブルーギル駆除方法の有効性の検証、ブルーギルの増大要因の解明、三方湖で開発された手法の北潟湖への応用を中心に検証し、長期間にわたりブルーギル問題(漁業や生物多様性)を抱える北潟湖での応用を目的として研究を進める。
	新規な性状を付与した魚類醤油干しの開発と試食会・試験販売に基づく製品の改善	海洋生物資源学部	教授	横山 芳博	27	魚離れの進む昨今、福井(特に若狭、小浜)の伝統食品の一つである醤油干しを、お年寄りや子供が食べやすいものに加工したり、調理の手間を省けるものに改良し、新しい醤油干しを開発・完成させる。
	九頭竜川アラレガコ伝統文化の再生を目指した増養殖技術の開発	海洋生物資源学部	准教授	田原 大輔	27	伝統漁法復活に向けた九頭竜川アラレガコの再生のため、放流稚魚の適正評価・放流適地の選定・魚道現況評価および改善の提言を行うとともに、食文化再生に向けたアラレガコ養殖技術の改良として、1年出荷を目指した効率的な養殖技術の開発を行う。
	院内研修における企画力育成・強化モデル有用性の検証 -中小規模病院の研修企画を通して-	看護福祉学部	教授	寺島 喜代子	27	中小規模病院の「研修企画力の育成・強化モデル」が病院研修の企画力育成や強化に役立つ実践的なモデルになりうるものであるかどうかについて検証と修正を繰り返し、その有用性を明らかにする。
	中山間地における農業農村の活性化策 ～小水力発電とその利用に関する実証実験～	学術教養センター	教授	菊沢 正裕	27	福井市高須町をモデルに、地域の自然エネルギーを使う実証実験によって農業農村の活性化策をモデル化する。既設の水田かんがい水路と地形の高低差を利用する小水力発電実験および電気利用(EV軽トラの利用)の調査実験を行い、県産の水エネルギー回収システムによる取水方式とかんがい管水路の損失効率や出力を実験調査および現地に適した軽トラの試作、稼働・利用実験、蓄電や充電方式の基礎的な調査実験を実施